

いちえいの市議会通信

第2号

発行者 阿賀野市議会議員 天野 市榮(いちえい)
事務所 阿賀野市
連絡先



市民ファースト！

市民目線の市政を実現します。

第二号では、令和三年三月・六月定例会一般質問の概要についてお知らせします。

令和三年三月定例会一般質問 (会期 令和三年三月一日～十九日)

一、あがの市民病院における救急医療（救急告示病院）の復活について

（質問）市民病院が開院して丸五年が経過。この間、運営主体である厚生連の医療ネットワークや新潟大学医学部寄附講座の設置、また医師確保を目的にした市長の新大医学部への訪問によって、常勤医師が徐々に増えている。任期中の救急告示復活に向けて、リーダーシップを発揮すべき好機と考えるがどうか。

（答弁）更なる医師確保に取り組み、救急告示の早期復活に向けて病院長や厚生連と協議を行っていく。

（質問）市長から事務方に対し救急告示復活について検討するようにとの指示はあったのか。

（答弁）毎月、病院（管理部門）と行う収支協議の際に医師確保や救急の話をしている。

（質問）厚労省が定めている救急告示の指定を受けるための四つの要件は知っているか。

（答弁）申請を行った際に周辺の二病院や基幹病院から異議が出なければ認められると考えている。

（質問）厚労省が定めた四要件は主に施設的な部分と医師の確保。医師につ

いては常勤医師数の基準はない。常勤医師が増えないから救急告示の復活は無理との答弁であったが、隣の阿賀町にある県立津川病院の常勤医師は五人。建物も昭和四十七年に建てられたままで古い。それでも救急告示の看板を守っている。病院も新しくなり運営主体も厚生連になったのになぜ救急復活ができないのか。

（答弁）現病院長が着任した時に意見交換をした際、当直医師が三人いないと救急告示復活は無理だと言われた。現状では三人でローテーションを組むのは非常に厳しい。医師の働き方改革も考えると救急ができる状況にはない。一番問題なのは、救急の看板を下ろしてから数年間何をやってきたのか、私の前任者（前々任者（故本田富雄氏）の誤り。）は何をやっていたのだろう。

二、道路除雪体制と消雪施設（消雪パイプ）の整備について

（質問）①今冬の大雪から分かったように、合併前の旧四か町村時代に敷設された市街地の消雪パイプは優先的な修繕や更新が必要と考えるがどうか。②消雪パイプが本来の効果が発揮されていない場合は機械除雪も必要と考えるがどうか。③消雪パイプの新設に対する考え方を伺う。市長就任以来、修繕・更新よりも新設を優先している。平成二十八年から三十二年の五か年の事業計画では、新設が事業費約十五億円、延長三十・四キロ。修繕・更新が事業費約十三億円、延長十八キロ。事業費も延長も新設の方が大きい。平成二十四年から令和三年の九年間の実績では新設が約二十八億円、修繕・更新が約十六億円となっている。新設に偏った事業展開になっている。消雪パイプの新設は家屋連たん部など堆積スペースが確保できず、機械除雪が困難な路線としているが、新設した箇所をつぶさに調べる

と、家屋の連たん部にも当てはまらない場所もある。また降雪量が少ない場所においても施工されている。自治会からの要望であることを大義名分にした新設工事が行われている実態が見受けられるが。

（答弁）①消雪パイプの更新の目安は、整備から三十年以上経過している施設が対象。散水状況等を確認の上、適宜、更新。②消雪パイプの効力が発揮できない場合は、必要に応じて機械除雪を実施。③消雪パイプの新設は、両側に民家があるなど住宅連たん地や道路の幅員が狭く機械除雪が困難なところなどを総合的に評価し、事業効果の高い箇所を優先して整備している。

（質問）県の担当課に県管理道路における消雪パイプの新設について照会したところ、市と同様な考え方であったが、現在は新設はないとの回答だった。田中市長が就任して以降、市長選（市議選）の年になると消雪パイプの事業費が大幅に増加している。消雪パイプだけでなく道路の補修・舗装といった工事も政治的な思惑で施工されていると感じる。具体的な事例を紹介し市長の見解を伺う。一つは昨年四月の市長選挙において、市長が選挙事務所（現在は後援会事務所）を設置した場所に面した市道において、市長選前後に舗装工事が行われ、十月の市議選前には消雪パイプの修繕工事が行われていた。二つ目は私の実家がある集落内の消雪パイプの打ち替え工事が市議選前に行われた。実家を継いだ当時市議だった弟が集落の集会で選挙の時にはよろしくという話があったそうだ。そういう話を聞く選挙絡みの道路工事かと思いたくない。

（答弁）私が市長選に出た平成二十四年の冬は大雪だった。機械除雪の後に家の前に置き去りにされた重たくて硬い雪の塊を片付ける高齢者の姿を見て、

消雪パイプの設置に力を入れ始めた。議員の実家のある集落内の消雪パイプは設置後三十年ちよつと経過して水の出が悪くなっていたので修繕した。地域の実態・実情を見ながら判断して施工箇所を決定している。政治的な云々は当てはまらない。公平・中立・公正正大に取り組んでいる。

令和三年六月定例会一般質問 (会期 令和三年六月四日～十七日)

一、五泉地域衛生施設組合が整備する市内最終処分場の建設について

(質問)平成二十八年七月に建設候補地に決まった大日地区について、軟弱地盤による大幅な事業費の増高(三十七億円から六十五億円)が判明。同地区での建設断念により、これまで支出された経費(総額で四〇三六万円)が無駄になった。①市として大日地区を選定した理由と検討経過、②選定に当たっての住民説明会の実施状況、③新たな候補地選定の見通しについて伺う。

(答弁)①二市一町の協議により最終処分場の建設は阿賀野市内と決定された後、適正地を調査し候補地を絞った。条件として平坦地であること、災害危険度が低いこと、交通アクセスがよいこと、近隣施設への影響等が少ないことを比較検討した結果、大日地区を選定。②選定にあたり地元の大日自治会や近隣の大室、村杉自治会に決定までの経緯や選定方法、計画の概要について説明。自治会以外の地権者には自宅等において説明。③新たな候補地は五泉地域衛生施設組合(二市一町)で検討していく。

(質問)最終処分場の候補地を大日地区に決定した平成二十八年七月二十日付け決裁文書(情報公開で入手したマル秘扱い公文書)には、候補地はこの外二か所(大室財産区、保田財産区)を加え比較検討して大日地区が選定された。一方、施設組合内に設置された建設用地選定会議が協議会長(施設管理者)に提出した報告書(平成二

十八年六月三十日付け)には一年近くかけて中間処理施設と最終処分場の候補地について、それぞれ構成市町の適切な場所を調査してまとめた一覧表がある。一覧表には阿賀野市の最終処分場の候補地は大室地区と草水地区が選定され、報告書では最終処分場の建設地は阿賀野市か阿賀町ということになっていた。ところが七月二十日付け決裁文書には、最終処分場の建設場所は阿賀野市、候補地は選定会議の報告書に記載のない大日地区になったのはなぜか。

(答弁)選定会議の中で候補地を決定することができなかつたので、改めて当市の大日地区のほか大室と保田の各財産区二か所を加え比較検討した。

(質問)決裁文書によれば、大室財産区はメガソーラーの建設予定地、保田財産区は土砂災害危険区域にある。大日地区を選定するために不適当な二か所を追加したのではないか。

(答弁)大日地区を選定したのは、土地の形状、焼却場からのアクセス、砂防や土砂災害などの危険区域に含まれていないから。

(質問)決裁文書によれば、大日地区には民有地が三十五筆、地権者が十七名いるとあるが、仲介者(墨塗り)を通しての用地交渉が可能と書いてある。この仲介者は公的な立場にある人物ではないのか。誰か。

(答弁)個人情報なので答えられない。

二、国道四十九号阿賀野バイパスの部分開通の影響と国道から新たな起点となった土橋交差点までの道路改良について

(質問)阿賀野バイパス(延長八・一キロ)が部分開通(下黒瀬・百津間五・四キロ)に変更になったことで、①全線開通(令和四年夏)を前提に建設中の道の駅の運営や市内事業者の経済活動への影響をどのように分析し対策を講じるのか。②国道(大野交差点)からバイパス交差点(土橋交差点)までの間の道路改良の見通しはどうか。

(答弁)①道の駅の建設には大きな影響はない。その他の影響については現在分析中。②道路改良は新潟国道事務所と協議を進めていく。

(質問)市長就任二期目に入った平成二十八年六月の定例会で、市長はバイパスの共用開始が早くても三年先(令和元年)、遅くても五年先(令和三年)と答弁している。同年十一月には道の駅検討委員会がスタートした。委員会は市内の経済団体と公募の市民のほか国道管理者の新潟国道事務所の副所長が委員になっていた。検討委員会の終了間もない平成三十年二月二十八日に新潟国道事務所から平成三十三年度(令和三年度)にバイパスが全線開通(暫定二車線)するとの記者発表(問い合わせ先は副所長)が行われた。新潟国道事務所の副所長が道の駅の検討委員だったことへの配慮がうかがえるが、市長の見解は。

(答弁)国は大体、共用開始までの五年を目途にパンフレット等で公表している。

(質問)バイパスの全線開通まではあと五年程度かかるというが、バイパスの共用開始は昨年四月の市長選の公約の一つになっていたが、見通しはどうか。

(答弁)国交省と協議をしながら来夏(令和四年夏)頃に部分共用の目途が立った。盛土材に河川掘削土を使用したため時間とお金が掛かった。早期に投資効果を発現させるには暫定での共用開始も必要。

三、空き家等対策の現状と今後の課題について

